

# gooddays

Vol. **43**

**around KANDA NISHIKI - CHO**  
New Culture & Alternative Lifestyle

2026 WINTER ISSUE  
PRICE 0 YEN

「運気を上げる！」





## around KANDA NISHIKI - CHO

Special Issue **43** Winter '26

### 運気を上げる！

TEXT / EDIT • Asako Inoue

PHOTO • Yuta Suzuki

新年あけましておめでとうございます。という挨拶もそろそろ終わりでしょうか。今のところ、2026年の調子はいかがですか？

一年の運気を左右する気がして、1月はいつもよりゲンを担ぎたくなります。神社に行くど御守りが欲しくなるし、ラッキーカラーを意識したり、縁起の良い贈り物をしてみたり。

「運気が良いっていうのはね、下がらないってこと。宝くじに当たるとかじゃないの」。これは今回の取材中に、神田更科の堀井さんに頂いた金言。まったくその通りです。夢のような大ラッキーもうれしいけれど、毎日を健やかに生きて「私って運がいいな」と思えたら、それって一番のラッキーですよ。

今回は神田錦町界隈の縁起物&スポットを巡ります。みなさんの人生が下がらないための、おまじないになりますように。

ショッピングやグルメを楽しめる、新旧入り混じった神田錦町界隈。毎号テーマに沿って、こだわりのある人にインタビュー。神田のヒト・モノ・コトに出会える情報チャンネルです。

## 豊島屋 Rita-Shop

日本酒は古くから「祝い酒」として親しまれてきた縁起物。神田にある酒屋の一つ「神田豊島屋」は、江戸に根付く日本酒文化を現代に伝える存在です。今回は内神田にある「豊島屋Rita-Shop」を訪れ、取締役社長の木村倫太郎さんにインタビュー。ここではか買えない神田限定銘柄「利他」や、日本酒の歴史についてお聞きしました。



取締役社長 木村倫太郎さん



## 日本酒は神様と人、そして人と人のご縁を繋ぐもの。

1596年に神田で創業した酒屋「豊島屋(現・豊島屋本店)」にルーツを持つ「神田豊島屋」。取締役社長の木村さんは、日本酒には人や神様を繋ぐ役割があると話します。「お酒は世界中で伝わる共通言語。一緒に飲み交わすことで人と人のご縁を繋ぎ、平和や人生の豊かさを生むものだと思います。アルコールという概念がない時代、人はお酒を飲んで不思議な気分になった時、神様と繋がるのだと考えていました。だからまずは神様とお酒を楽しむために3回黙って飲み、その後は無礼講でみんなとお酒を楽しむ、というお酒の嗜み方をしたんだそうです。店内には神棚があり、木村さん自身も毎月神社へお参りに行って日々の感謝を神様に伝えているそうです。

出世不動通り沿いにある「豊島屋Rita-Shop」では、神田限定の銘柄「利他」を販売。神田のまちに来るきっかけになってほしいとの思いから、オンラインで購入しても受け取りは店舗のみ!というこだわりです。ここでしか手に入らないということで、まちの人は贈答品や神田土産にぴったり。また銘柄名の「利他」にはこんな思いが込められています。「利他とは自分よりも他人を思いやる心のこと。お酒を造るうえで私たちが大切にしている精神です」。利他の心で周りの人たちとの関係が円満になれば、仕事運もアップしそうです。「利他」が大切な人への贈り物だとすると、飲むみりん「Me」は自分自身へのご褒美。運氣を上げるには、自分自身が元

気でなくては始まりません。「調理用のみりんではなく、麴ともち米に熊本県の球磨焼酎をブレンドしたりキュールのようなドリンクです。優しい甘さに癒されます」。おすすめの飲み方はなんと焼酎割り。江戸時代のカクテル「柳陰」という飲み方で、暑気払いとして飲まれていた歴史があります。

お店には近隣の住民や会社員が訪れるほか、最近では海外からのお客さんも多いと言う木村さん。「神田は小さなビルが集まっていて、エッジの効いた個人店が多いのが面白いところだと思います。当店ではお酒の試飲もできますし、近隣にも豊島屋のお酒飲める飲食店さんがいます。ぜひ足を運んでいただき、神田のまちを楽しんでいただきたいです。



豊島屋 Rita-Shop  
東京都千代田区内神田1-13-1  
11:30~18:30 日休 03-5577-3289

## おすゞのひも

五十稲荷神社の脇に今年5月、小さなカフェがオープン。カウンターに立つのは神主としても働く鳥居虎太郎さんです。コース仕立てで用意してくれるお茶やお菓子は、御神前にお供えた水や食材で丁寧に作られたもの。まちの神社がどうしてカフェを作ろうと思ったのか。虎太郎さんにお話を聞きました。

### 鳥居虎太郎さん



店内には虎太郎さんがこれまで集めてきた器や古美術が並んでいる。茶葉はその日により、煎茶や抹茶、玉露など数種そろう。



## 神様と繋がる“鈴の緒”を体現する神社のカフェ。

このまちにはカフェがたくさんありますが、「おすゞのひも」はこっそり行きたい特別な場所。神社の脇に佇む扉を開けると、美しい茶道具と炭火の上で湯気を立てる銅のやかん、朗らかな店主・虎太郎さんが出迎えてくれます。虎太郎さんは五十稲荷神社で神主として働きながら、月に2週間だけ「おすゞのひも」を営業中。カフェは虎太郎さんと、神主で母である直美さんのアイデアから生まれました。「神社という場所やその空気を感じていただける場所をつくりたくて。私は茶道をやっていて、好きで集めていた器もたくさんあったので、カフェのおもてなしに使おうと思ったんです」。

メニューは毎月一つのコースのみ。自家焙煎の小豆茶と炒り黒豆から始まり、自家製のお菓子と選べるお茶、最後は黒豆茶とお茶うけという三部構成です。お茶とお菓子には、御神前に一度お供えた水と食材を使うというも神社ならではのおもてなし。「神様が宿った食べ物を身体に入れることで、ご利益を授かっていただけたら。店名は参拝の時に鳴らす鈴の緒を意味しているのですが、この空間も同じように、神様や神社と繋がる場所になればいいなと思っています」。この日のお菓子は陶器のお重に入った温かいおはぎ。お茶と一緒にいただくと、身体がほかほかと満ちていくのを感じます。虎太郎さんにとってお茶を淹れるという作業は、自分を整え

る行為でもあるそう。「神主の仕事も、お茶やコーヒーを淹れるのも、一連の動きを丁寧にやり終えることでやる気が湧いてくるんです。きっと所作というものが好きなんだと思います」。

神田のまちは虎太郎さん馴染みの場所。特に神保町の古書店街は、古美術好きの彼のお気に入りです。「骨董の本や図録がたくさんあるので、よく買い物に行きます。残念ながら文章を読むのは苦手なのですが(笑)。まちには父の知り合いや町会の方など顔馴染みの方も多いため、とても落ち着きます」。神社の仕事も楽しいが、カフェでやってみたいこともたくさん思案中。「作家さんの器は暮らしを豊かにしてくれると感じています。今後はみなさんにも、そういったものをご紹介できる機会がつけられたらいいなと考えています」。



**おすゞのひも**  
東京都千代田区  
神田小川町3-9-9  
営業情報/  
インスタグラムを確認  
@osuzunohimo  
※予約制

# KANDA Walking



## 神田と縁の深い藍色のお守り

小川町のお稲荷さんといえばここ。商売繁盛に子宝安産とご利益もいっぱいだが、御朱印からアクセサリまでそろうアイデア豊富な授与品は、ここにしかないお楽しみ。藍色の御守りは、江戸時代に徳川家康が神田に染物職人を集めた歴史に由来するもの。藍には魔除けの意味があるので、身につけてい

ばきと守ってくれるはず。



藍守 1,000円



五十稲荷神社

東京都千代田区神田小川町3-9-1  
営業情報/Instagramを確認 @gotoinarijinja

身につける!

1

贈る!

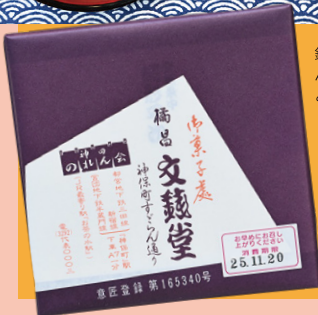
## 金運アップおもたせ 銭形平次最中

1949年創業のすずらん通りの和菓子店。素材にこだわった和菓子の味を三代目の細川昌美さんが守っている。江戸時代の通貨・寛永通宝の形をした最中はおもたせにぴったり。北海道産の大粒大納言を使ったつぶあんや、宇治抹茶をふんだんに入れた白あんなど、こだわりの餡がずっしり詰まっています。金運アップにあやかれそう。

銭形平次最中(大納言あん、小豆こしあん、栗きんとん、挽茶あん) 各200円

2

橘昌文銭堂  
東京都千代田区  
神田神保町1-13-1  
10:00~18:00 日休  
03-3292-0003



# Guide

gooddaysが毎回特集に合わせて、歩いて回れるおすすめスポットをご紹介します。今回は新年の運気を上げるべく、まちの縁起物&スポットを集めました。



笑う!

日本で唯一の月刊演芸専門誌「東京かわら版」800円もお店でゲットできます!



## 笑う角には福きたるほぼ毎日寄席を開催中

「ボンディ」と同じビルの5階にある寄席。大の落語好きのオーナーが「若手が挑戦できるライブハウスのような寄席を」とオープンしたが、ベテラン噺家が腕試しにと高座に上がることも。落語、浪曲、講談と話芸全般の会をほぼ毎日開催。1月は「初天神」などのめでたい古典落語も多くかかるので、初笑いしに出かけてみて。

らくごカフェ

東京都千代田区神田神保町2-3-5  
イベントスケジュールはHPを確認  
<https://rakugocafe.exblog.jp/>  
03-6268-9818 (平日12~18時)

4

食べる!

## 大根おろしは厄おろし そばの薬味には意味がある

そばは長寿を願う縁起物ですが、薬味にはこんな意味があると店主の堀井さん。「大根おろしは厄おろし、七味は人間の恨み、辛み、妬み、嫌味、そねみ、ひがみ、やっかみの“しちみ”を消してくれ、山椒は何度も三省することを教えてくれるんです」。なんだか心が晴れない日も、そばをすればスカッと晴れやかに過ごせそうだ。



3

神田錦町 更科

東京都千代田区神田錦町3-14  
11:00~14:00、17:00~18:30  
土曜日、日祝休 03-3294-3669



# PHOTO WALL Vol 24

テラススクエア  
フォトエキシビション  
2026/1/26(月)～2026/5/22(金)  
開館時間8:00-20:00(最終日のみ19:00まで)  
休館日 土日祝・年末年始 入場無料



あなたは世界をどう見ているのか。  
暗闇に向き合うことで、『見る』という行為を思い出す。

Terrace square Photo Exhibition vol.36

## 黒田 零 Rei Kuroda / 影の語り部 Shadow Storyteller

写真とは、目の前の世界をどう見るかというもの。黒田は“見る”という行為をこう考察します。「私たちは日々膨大なものを“見ている”はずですが、実際にはただ視界に入れているにすぎません。多くの写真も情報として流れ去っていきます。しかし、一見してよく見えなもの、何が写っているかわからないものに向き合う

とき、私たちは能動的に『見る』という行為を思い出すのではないかと感じています」。黒田の作品に見られる暗闇の中にあるのは、作家が世界をいかにみるのかという主張であり、あなたは世界をどうみているのか?という問いかけ。暗がりに射す光を写し出す写真に、あなたは何を見つけるのでしょうか。



### 黒田 零 Rei Kuroda

写真と映像のあいだにある瞬間を捉え、非(脱)人間中心主義的視点から、言葉以前の光しや不可視の物語を探索している。写真・映像・音を行き来しながら、マジックリアリズム的な世界を構築する。

テラススクエア  
東京都千代田区神田錦町3-22  
1F エントランスロビー

## EVENT INFORMATION 2026/Winter

venue 三省堂書店神田神保町本店 period 2026年3月19日(木)

event いよいよ!2026年3月19日「三省堂書店神田神保町本店」オープン

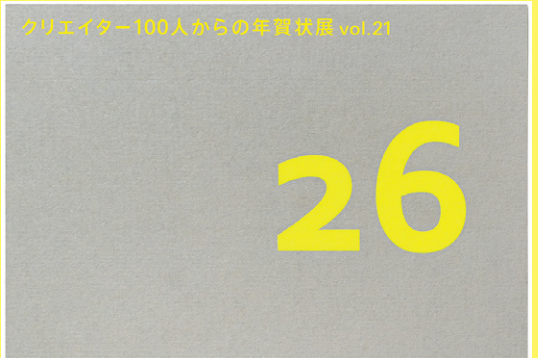


2022年5月に一時閉店した三省堂書店が、2026年3月19日に「三省堂書店神田神保町本店」としてオープン。12月1日に行われたオープン100日前説明会には、代表取締役社長の亀井崇雄氏や糸井重里氏などが登壇しました。新店舗は「歩けば、世界がひろがる書店」をコンセプトに、本との偶然的な出会いが楽しめる工夫が満載。また「THE ジャンプショップ 神保町」などのテナントも入るとのこと。次号の『gooddays』では、新店舗の全貌を紹介する大特集を予定しています。

venue 見本帖本店 period 2026年1月22日(木)～2月18日(水)

event 「クリエイター100人からの年賀状」展 vol.21

竹尾の新春恒例企画「年賀状展」を開催。21回目となる今年も新年の挨拶に代えて、竹尾に届いたクリエイターたちの個性豊かな年賀状を展示。東京の「見本帖本店」以外に、大阪と福岡の見本帖でも同時開催します。紙とデザインにのせた、クリエイターからの新年のメッセージを楽しんで。



# 第三回 目指せ! 神田名人

gooddays編集部が神田のキーパーソンにインタビュー。

まちの歴史と文化を掘り下げて、“神田名人”を目指します。

今回お話しくださったのは「大屋書房」四代目の瀬瀬くりさんです。



今回の先生  
大屋書房 四代目店主  
瀬瀬 (こうけつ) くりさん

店内は和本のワンダーランド。大河ドラマでお馴染み篤谷重三郎が手がけた書物や、くりさんの父も祖父も好きだったという人気浮世絵師・月岡芳年の版画まで、江戸～明治時代の作品の本物を見ることが出来る。



## 「篤十が見たいって、小学生も来るんです」



1882年創業の大屋書房は、江戸～明治時代に出版された和本や浮世絵の専門店。棚にみっちり詰まった和本は、数百年前に出版された戯作（江戸時代の文学）から医学書、料理本、図鑑、絵本までジャンルも多種多様。なかには篤谷重三郎が手がけた出版物や、有名作家の浮世絵など、誰もが知る名品の現物を見ることができて心躍る。「古書店は美術館じゃないから、実際に手に取って見て欲しいです。最近は小学生が『吉原細見』を見せてくださって来るので、いいよ〜って見せるんですよ」と話すのは四代目の瀬瀬くりさん。家業に入って25年。古書店のいろはは、今年2月に他界した父・公夫さんと、常連さんが教えてくれたそう。「父がいつも言っていたのは、古書店は本と本の橋渡しをする場所だということ。昔ここで買った本をお客様が売ってくれて、それがまた誰かの手へ渡つたりね。長年通ってくださるお客様は本のエキスパートなので、古典の世界のことを今も教えていただいています」。時代を超えて残ってきた物語を読むロマンもさることながら、独特の綴じ方や印刷の具合も見所なんですくりさん。「何回目の摺りなのかとか、摺る職人によっても仕上がりが変わるので、そういう見方も面白い。『里見八犬伝』などは文字も読みやすいですよ。和紙は強いので今後も何百年と読み継がれていくはずですよ」。

## 「神保町は個人店が集まる温かいまち」

オークションで自分が高い妖怪絵巻を先に落札してしまつて、父がショックで帰ってしまった……なんてお父様との笑えるエピソードが絶えないくりさん。家業に入れと言われたことはなかったが、思えば小さい時からセンスを磨かれてきた。「本だけは何でも買ってあげるというスタンスでしたし、毎週のように美術館に連れて行かれました。大学の卒論のテーマが村上春樹だったくらい、私は近現代の文学が好きでしたが、気づけば仕入れの時も“良いな”と思うものが父と一緒に。自然と感性が受け継がれていたのかもかもしれません。まあ、いつも

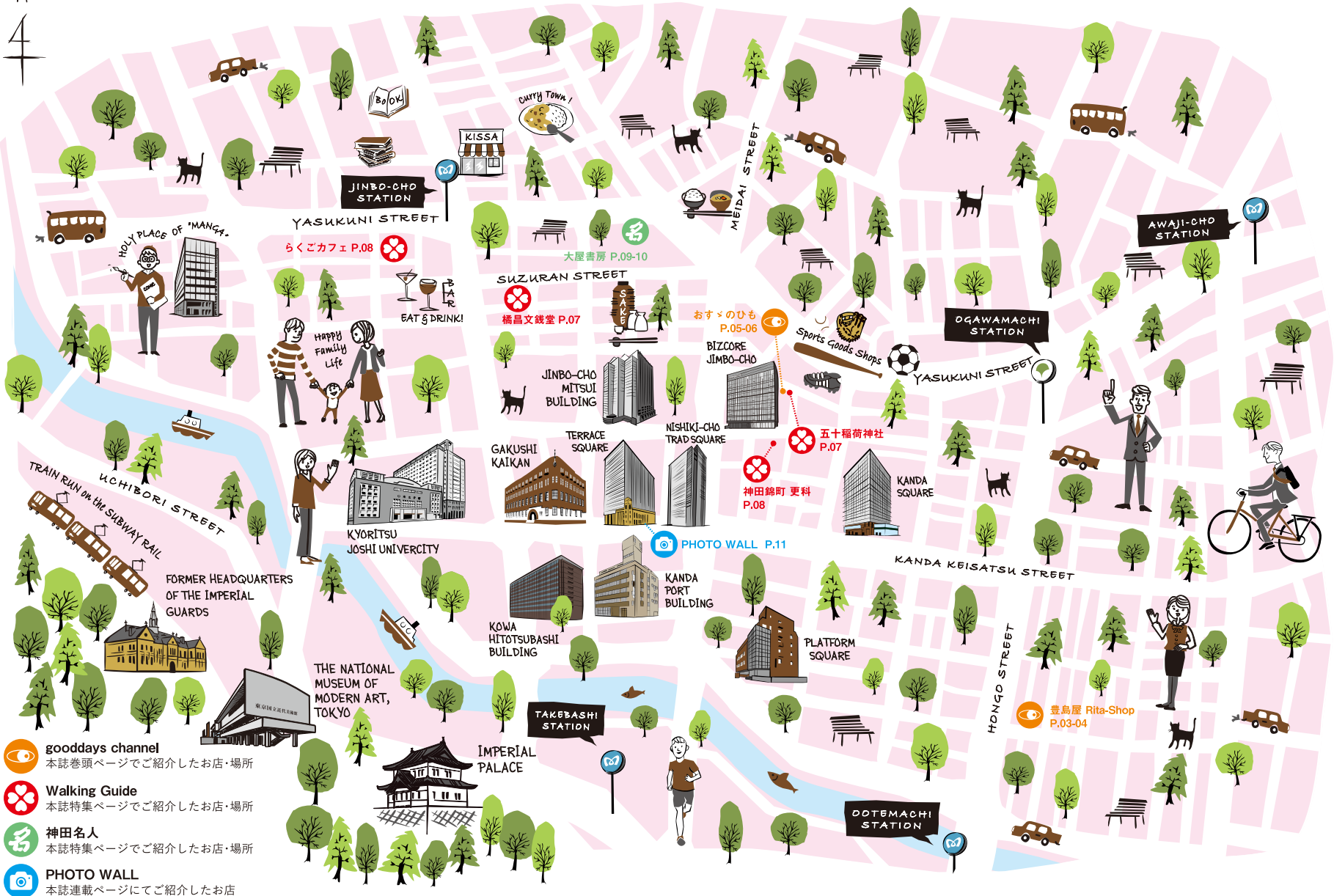


喧嘩してましたけれどね。あははは」。小さな時から育つた神保町のまちとのつながりも深い。「個人店が多いのがこのまちの魅力。自分と同じように家業を継いだ人も多いし、近所の方が古本まつりを手伝ってくれたり、しょっちゅう飲みに行ったり、あたたかいまちなんです。どのお店も残って行ってほしいし、まちの発展のためなら惜しみなく、いろんなことをやっていきたいです」。



### 大屋書房

東京都千代田区神田神保町1-1  
11:00～18:00 日休  
03-3291-0062



-  **gooddays channel**  
本誌巻頭ページで紹介したお店・場所
-  **Walking Guide**  
本誌特集ページで紹介したお店・場所
-  **神田名人**  
本誌特集ページで紹介したお店・場所
-  **PHOTO WALL**  
本誌連載ページにてご紹介したお店

